

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	花巻市石鳥谷町大瀬川8-1-1		
自己評価作成日	平成25年3月17日	評価結果市町村受理日	平成25年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390500031-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成25年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中で、お風呂は温泉を使用し快適な入浴を勧めている。ともに「笑顔でゆったり憩ういえ」家庭的な環境の下で入所者が趣味の時間を思い思いに過ごしていただき、入所者中心のケアに努めている。昔ながらの季節の行事を欠かすことのないよう、入所者から情報を得ている。毎年恒例の納涼祭では、子供さんをはじめ地域の皆様が盆踊りを披露して下さいます、又ボランティアとして協力を頂いております、地域の皆様・入居者・職員と共に大盛況です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1日1回笑って、笑顔で過ごせるように心がけている。職員がケアをちゃんとしなくてはという意識で緊張した態度にならないよう、普通に対応できるように、それぞれが気を付けているだけでなく、利用者も笑顔でいられるように、互いに気遣いしている。地域とのかかわり等は、事業所の行事や避難訓練の際、近隣住民の協力を頂いている。近隣の方々の他に、地域の高校生が行事のお手伝いをしてくれたり、利用者の家族も一緒になって行事の運営も行われている。地域の公民館等も協力的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でゆったり憩う家」の理念を掲げ、掲示して自然体で業務を行うようにしています。	1日1回笑って、笑顔で過ごせるように心がけている。職員が介護をちゃんとしなくてはという意識で緊張した態度にならないよう、普通に対応できるよう職員が気を付けているだけでなく、利用者も笑顔でいられるように、お互いが気遣いされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来るだけ地区行事に参加するように意識しています。出席すると声を掛けられる機会が増えております。野菜や花をいただくこともあります。	事業所の行事や避難訓練の際、近所の方々が参加している。近所の方の他に、地域の高校生が行事のお手伝いをしてくれたり、利用者の家族も一緒に行事の運営が行われている。地域の公民館等も協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を通して向上しつつあります、職員は認知症の理解を深めるため各種研修に参加し研鑽を積んでおります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、利用者の状況や、介護に関する問題を提供し話し合っており、サービスに繋げております。	2ヶ月に1回実施されており、地域の方の他に消防、警察、地域包括支援センター等が参加している他、利用者も参加されている。委員からは行事への意見、避難訓練についての意見がある他、地域の文化祭への出品や、公民館の備蓄の利用について等、提案されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の職員に連絡を取り、生活保護受給者の相談をすることも協力をお願いしております。	事業所の運営については石鳥谷支所、利用者の生活保護の関係については花巻市役所とやり取りをしている。普段は特に連絡はないが、利用者の出入りや生活保護の関係で役所と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内で宣言を行い掲示し身体拘束しないケアを行い、各入所者の振り返り、見直しをしております。職員間で意識し意見交換を行っております。	身体拘束の実績はないが、利用者毎に、必要に応じて身体拘束を行わないためにチェックリストを用いて確認をしている。月に1回カンファレンスを行い、状況が確認されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止関連法について理解しています。研修を受けた職員は全員に回覧し研修内容を周知するようにしています。入所者への言葉掛けも注意し合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修の中に権利擁護に関して学ぶ機会がありますが、入所者に必要性を感じる機会がなく、活用できていないのが実情です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に担当職員と介護支援専門員と複数で面接を行い、ご家族やご本人に説明し納得した上で契約となります。以前の解約の際でも疑問な点を尋ねられたことはありません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の時に苦情申立ての説明を行っています。投書箱を設けております。	家族と会う機会がある時に確認されており、要望があった場合には記録がとられている。本人からの希望はあまりないが、家族が話しやすい職員が、要望を聞き取るようにしている。投書箱の利用が他人から見られないように、トイレに設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開いています。その場で職員の意見や要望を聞き、話し合っ業務等の改善や運営の参考にしております。	申し送りや職員会議等の際に、職員から利用者への介護について熱く意見が語られている。食事についての意見が多く、状況に応じて食器を使い分ける提案があった。手間のかかる対応が求められる提案だったが、これにより細かい食事のケアが行われていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり職員が向上心を持って働けるよう意見を聞き助言しています。給与は規程による。労働時間は規程の範囲内で希望も聞いております。働きやすい環境になるよう意見を入れ整えるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は他施設で研修を受ける機会を持っています。他の職員は、資格や働いた年数に応じた研修をうけています。研修内容は全職員に周知するようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は岩手県グループホーム協会や花巻、北上ブロックのグループホーム定例会に交代で参加して、他施設職員と交流を図っています。研修者を受け入れ情報を交換しサービスの向上にも努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接で、生活状態を把握し、本人の希望や家族の要望を叶えるよう努めています。コミュニケーションをとり入所者に受け入れられるよう努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で聞き取りし「私の気持ちシート」を作成している。家族等が困っている事を理解し、生活面を見ながらどのようなサービスが適格か考慮し、施設としてはどのような対応ができるか家族とも話し合っております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人の思いやご家族の考え方、希望を聞き、ケアの方針を決めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間の行事の古くからの習わしなどを聞きながら参考にしています。行事食などを教わりながら手伝っていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に手紙を書き生活の様子をお伝えしております。行動障害が発生した時は対応しますがご家族のご意見も尊重しながら進めており、ご面会の時は入所者を中心に良好な関係を保っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者の働いていた時の職場の同僚が面会にこられた時は、居室でお話をさせていただいている。帰られた時は入居者が満足した様子であり、ご家族にも報告して続けていただいております。	親戚の家へ外泊が行われている。職場の同僚や教え子が訪れたり、家族と外出があった。職員と一緒にドライブを兼ねて自宅や出身地へ出かけている。家族が年賀状を用意して、利用者が名前を書いて出すなど、様々工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の他にもおやつも皆さん一緒に摂っていただいている。気の合う入所者同士で過ごしている場面には見守りを行い、気になる者同士が隣り合わせた時は職員が仲介し円滑な関係を保つよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され自宅に戻られた方がいるが、時々来苑しお話をしている。その後の様子を電話で伺う事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の様子をみて各視点から気をつけております。申し送り時や申し送りノートに記載し、職員が全ての事を共有するようしております。職員会議やケアカンファレンスの議題に取り上げ検討しております。	利用者が職員と二人きりになるときに、会話を通じて聞き取っている。お風呂、オムツ交換時など、楽しく会話しながら行われており、なるべく利用者と話す時間を持つようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に「私の気持ちシート」やご本人やご家族のお話から把握できていない事を面会時の会話などから広く情報を得るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「生活日誌」に一日の経過を細やかに記録し、変化を見逃さないように注意しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来苑時、ケアについてのご希望を伺ってケアプランに役立てております。看護師、栄養士の意見も介護計画に役立てております。	職員全員で作成されており、本人、家族の要望、医師の意見を取り入れている。毎月3人づつ見直しが行われているが、状況に応じて毎月見直されている場合もある。	家族の意見が記入されているところが見られたが、本人の意向が計画の中には記されていないことから、計画にどの程度反映されているのかが明確ではないため、本人の意向も記されることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者の毎日の生活の記録したものを、申し送りの時間として朝夕2回行い情報を共有してから業務に入っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族にお願いしておりますが、都合が悪い時は職員が同行しております。ご家族の要望でクリニックの訪問診療を開始している方もおります。入所者の不足品がある時はご家族の了解の上購入しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の体育祭に出かけた際に今回初めて競技への参加がありました。地区健診にも参加し、再検査の連絡があり健康面からも地区参加を大いの利用するべきであると感じております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族通院となっておりますが入所者のうち5人が職員対応となっております。ご家族が希望する医療機関にでかけて続行しております。バイタル記録と行動記録を持参し、診療の参考にさせていただいております。	入居前からのかかりつけ医の利用を基本としているが、遠方場合は近くを紹介している。家族が通院を行っているが、家族が遠方に居住している場合は事業所で対応されている。医師には事業所で計測したバイタル等の情報を渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者のバイタルチェックを怠らず、変化時は看護師に相談しています。いない時は連絡し相談して、必要であれば受診しております。ご家族への連絡も必ず行うようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時は情報提供書を作成し持参しております。入院中は時々見舞い看護師から情報を得るようにしております。退院する時はご家族と一緒に説明を受け、帰苑してからの支援に間に合うよう整えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一度ターミナルを経験しておりますが、研修の機会があったら受けるようにして次の支援に役立てたいと思っております。	過去に終末期ケアを実施した経験があるが、看護師2名体制により、適切に行うことが出来たが、現在は、看護師1名ということもあり、終末期ケアの対応は難しい状況である。そのため、早い段階で家族と話し合いを行っており事業所で看られなくなった場合は特養等、他所の受け入れ先を紹介し、手続きを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接しているケアハウスにAEDを設置しております。年2回消防署立会いの避難訓練で応急手当、人工呼吸訓練、AEDの使い方など心肺蘇生法を習得し万が一に備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回の避難訓練のうち夜間を想定した訓練を行っております。地域防災協力員やボランティアに協力していただいております。消火器や避難路、水害の時の避難場所を確認しております。	隣接する軽費老人ホームと合同で、年に2回避難訓練を実施している。消防が参加し、AED、人工呼吸、消火訓練が行われている他、夜間想定でも実施されている。訓練には地域のボランティアが参加し、避難の手伝いをしている。ダムが近くにあるため、水害対策の訓練も行っている。	事業所独自の避難訓練を行っていないため、是非、単独で実施してもらいたい。そのうえで、夜間の訓練を行い、暗い時間帯だどのように避難したらよいかを検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着衣失行している時は、自室にて声を掛け交換していただき、自尊心を傷つけないようにしております。排泄面では、さりげない誘導やタイミングをみての声掛けに注意しております。	オムツ交換、失禁時の着替え等、自尊心を損ないそうな状況では心情に配慮した対応で、利用者をたてた対応を行い、傷つけない対応を心がけている。言葉が出ない、考えることが難しいような場合、選択肢を作り、好みのものを選びやすいように対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から、昔してきた事を思い出すように豆や小豆の選別を行っていただいたり、畑に蒔く野菜の種類を聞いたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外は自分の好きな所で生活していただいています。自室でテレビを見る方もいるし、ホールにて過ごす入所者もおります。行事やレクレーションへの参加はご自分の判断にまかせております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や気温に合わせて職員と一緒に服を選ぶこともあります。重ね着や着衣失行をさり気なく直していただいております。理髪はボランティアの方が来ますが、髪の長さを聞いてから行なっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きと「いただきます」の挨拶、茶碗拭きそれぞれ役割を持って行っています。時々準備も手伝っていただきます。献立を毎日書いていただいたものを、貼っております。	畑でトマト、じゃがいも、ほうれん草等を作っている。季節に応じた食事を作っており、手伝いができる方は食事の準備や後片付けを手伝っている。献立は栄養士が作成したものを基に調理されており、利用者が食べられる量を提供している。外食は希望がないため、積極的には行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいるので栄養のバランスを考え提供しております。義歯のない方、自歯欠損の方に刻み食、ミキサー食を出しております。水分補給は見守りを行い、不足している時は飲みやすい物に替えて提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人には声掛けを行い、できない人には介助を行っております。失語症の方には、ジェスチャーで伝えることで上手に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを拒否する入所者に対し無理強いせず失禁パンツを使用いただき、こまめな交換を促し清潔保持に努めております。	排泄チェックが行われており、毎日確認され、月毎の一覧にまとめられている。日中、声掛け、誘導が行われているが、夜間は寝ることを優先して声掛けは行っていない。自力でトイレに行くことができない場合はオムツ、リハビリパンツ等を利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトを食べていただいております。また、繊維質の多く含む食品も考慮し便秘対策を行っております。個別に水分補給を行って取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉であるので入浴を拒む方には温泉をアピールしコミュニケーションを図りながら勧めております。入所者全員見守りと介助が必要です。	週に2、3回は入浴することを心がけている。入浴を拒否する方は清拭、足浴等に対応しているが、できるだけ入浴するように誘導している。1日3人が午後から夕方にかけて入力している。日曜日は休みとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自室で過ごされる方が多く、テレビ観賞、新聞、雑誌等を読んでもつろいでおります。車椅子使用の入所者は昼は必ずベットで休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一覧表に薬も記載しており職員は全員、内容を把握できています。服薬の確認は複数の職員で行い、誤りのないよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ゴミ出し、新聞取り等役割があります。行事へ参加し楽しんでいただいております。植物の先生がいるので、鉢植え等任せております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出かけております。本人の意見を聞きますが、筋力低下防止に努める意味も込めております。ドライブをして四季の変化を感じていただいております。お花見、空港見物、田んぼアート、案山子も見に行っております。	暖かい時期には事業所の周辺を散歩して歩いたり、職員とドライブに出かけて買い物を楽しむこともある。本人の意思を尊重し、無理強いはいしていない。隣のケアハウスの友人を訪ねていることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの所持は認めておりませんので物品が不足した時は、ご家族に連絡して補充していただくか、立て替えて購入する事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が取り次ぎいつでもお話していただいております。手紙もいただいておりますがお電話で返事をする事が多いです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を生けるようにしております。柱には造花を飾り四季の変化を出しています。天窓から明るい日差しが入るようになっております。	通路に職員手作りのカレンダーがたくさん掲示されている。月毎に利用者や職員の楽しそうな写真が掲載されており、事業所の皆さんの楽しい思い出が目につくようになっている。リビング兼食堂に自然に利用者が集まっており、様々な作品が展示され、明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でくつろげるようソファーを提供している部屋があります。和室にテレビと炬燵を備えております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使っておられた筆筒や仏壇を持参しております。自室に畳を敷き生活しておりますが冬場は炬燵をしている入所者もおります。居心地良く過ごしていただいております。	規格が様々だが、広い居室にベッド、洗面台、クローゼット、ヒーターが設置されている。私物の持ち込みが歓迎されており、タンスやテレビ、ラジオ等、様々な私物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に洗濯物干しを用意して、ご自分の洗濯物を干していただいております。たたむのは一緒に行い収納しております。トイレの場所の判断が出来なくなった入所者に進む方向に矢印を示したら分かる様になりました。		